

# 石垣市民意見交換会

日時:令和6年8月27日(火)19時~20時50分

場所:福祉部会議室1・2

主催者:石垣市

参加者:障がい者団体等、住民12人

次第:1. 沖縄県国民保護共同訓練に係る住民避難の考え方(案)の説明(石垣市)

2. 特定臨時避難施設の概要説明(石垣市)

3. 住民との意見交換

## 意見交換内容

### 【意見1】

- ・石垣市には人口が5万人いるが、避難する際の費用は無料か。
- 今現在の計画は、あくまでも武力攻撃が起こる前に、全住民を県外へ避難させることを想定している。その際に使うのが航空機、船舶を想定している。各航空会社、船舶会社は沖縄県が調整している。国民保護法に基づく避難となるので、全て国の方で費用負担を賄うことになる。受け入れ先での救援に関して、医療の提供や食べ物等についても国のほうがすべて面倒を見るという立て付けになっている。(防災危機管理課長)

### 【意見2】

- ・福祉課に伺いたい。福祉課として障がいを持った人たちのための素案などは出しているのか。考えているのか。
- それを考えるために、防災危機管理課と協議をして、色々なやり取りをしている。その一環として今日の意見交換会を実施している。(障がい福祉課)
- 今現在もいろいろな課題がある。全住民を安全なうちに県外へ避難させる計画なので、今までにないような関係機関も多い。また障がい者の方も含めた要配慮者の方をどのようにして避難させるかという点について、今年から福祉課と協議を行なっている。
- まず人数の把握、どのような状態の方がどれ程いるのかということからスタートしながら、県立八重山病院と協議を行っていかうと考えている。
- 沖縄県の共同訓練だが、令和8年度にゴールを置きながら関係機関と協議しているところ。令和8年度のゴールに向けてこの訓練を重ねてきているが、まだまだ現時点において課題が山積してる。その一環として今回は障

がい者の皆様の意見交換会、この後は医師会との意見交換を予定している。そういった意見交換を行いながら、本当に実現が可能な計画が作れるのかというところについて、これからもまた検討を重ねていく。(防災危機管理課長)

### 【意見3】

- ・障がいがあり、このような避難をするということはとても大変な事だ。先が見えない。どの様に計画を組み立てて行き、どの様に私たちと話し合いをしていくのかを十分に検討してほしい。  
避難という事を考えるだけでも恐ろしい。私たちの意見をよく聞いて、計画を作っていてほしい。
- 障がい者のいろんな状態に応じて、大変さがそれぞれ違うと考えている。説明した航空輸送に関して、例えば、屋内練習場に住民避難登録センターを設置するが、そこで障がい者の方がスムーズに手続きができるのか等も確認していきながら検討したい。  
説明でもあったらとおり 10分置きにバスが出発することになり、かなりハード、タイトなスケジュールとなっている。今後、本当にそれが可能なかというところを検証しながら十分変更も有りうると私は考えている。  
(防災危機管理課長)

### 【意見4】

- ・例えば、新川地域とか真喜良地域とか公民館があるが、その中で障がい者がいることをわからない住民が多いと思う。公民館の人たちが、この地域には障がい者の人がいるという把握が必要だと思うので、障がい者の住まいに訪問し人数の把握をした方がスムーズに登録が進むと思う。  
避難する期間がわからない。ずっと避難先で暮らさないといけないのか、避難を終えて島に帰った時に財産が無くならないのか、避難先の地域に慣れるのか、病気を持っている方であれば医療関係機関がわからない等心配がある。しっかりと準備がされる様、前もって公民館の人たちが障がい者の住まいに訪問していただき、障がい者の登録をする事が必要。登録してから逃げるのではなく、その前から障がい者の登録をし、しっかり現状を把握してほしい。ろうあ者の場合は手話通訳がついて一緒に行けば、パニックが無いかと思う。
- ありがとうございます。福祉総務課の方で今年度避難行動要支援者に関する調査を行うと伺っている。併せて、公民館とコミュニケーションを取って、地域の中にどのような状態の方がいるのかを把握したい。また医療機

関とも情報を交換しながら、要配慮者の人数、状態の把握に努めたい。(防災危機管理課長)

#### 【意見5】

・知的障がいを持った子は自分の意志を発信できないので避難が困難。例えば、障がい者施設の方と一緒に逃げる等、避難する際にどのような支援者を出してくれるのか心配。

家族単位で避難するのか、個人で避難するのかは、私たちにとってはとても大切なこと。

→知的の部分は大きな課題と考えている。福祉部や福祉施設の方々の意見を聞きながら、パニックを起こさずにどのようにして避難ができるのかは難しい課題だとは思いますが、安全に全ての方が避難できるような避難要領を作成していきたいと考えている。(防災危機管理課長)

#### 【意見6】

・障がい者の避難方法の決め方を教えてほしい。例えば、ろうあ者がいた場合、市役所が飛行機か船舶かを決めるのか、それとも本人の希望を聞いて飛行機か船舶かを決めるのか。

→例えば、支援の方が居れば航空機に乗れる等、基本的に航空機に乗れる方は航空機に乗って避難していただく。知的の部分も本当に難しいが、航空機という空間、知らない人と一緒にいることができるのか、できないのかそこをまず中心に考えたい。航空機での輸送は難しいという場合は、船舶の輸送という形を考えている。仮に分ける基準を示すとすると、航空機での輸送に耐えられるかという点が一つの基準となるかと考える。(防災危機管理課長)

・パニックになってしまう方や、精神的に不安が強い方がいると思う。そういう人がいると全体にパニックが広がっていくかと思うので考慮していただきたい。

→知的に限らず、病気で医療機関に入院していて航空機での輸送に耐えられないような方等も船舶で医療従事者と一緒に避難することを基本的に考えている。(防災危機管理課長)

#### 【意見7】

・避難は先島住民としているが、沖縄本島はどうなるのか。

→今回の要領で考えているのは、武力攻撃予測事態になった時に、どのように島外に避難するかである。その想定として国から先島住民は県外の九州・山口に避難、沖縄本島の住民には屋内避難の指示が出るというもの。その想定の中でどのように現実性の高い避難要領が作成できるかというところに取り組んでいる。

なぜ先島五市町村かという、先島五市町村というのは一番南にあり、離島ということもあって航空機、船舶輸送が一番困難な地域となる。まずはこの一番困難な地域から県外への避難要領を作成する。

先島五市町村の要領が令和8年度に作成したときに、沖縄県としても県外避難の避難要領の作成に取り組んでいきたいと聞いている。(防災危機管理課長)

・あえて九州・山口ではなくて沖縄本島に避難した方が良いのではないかと  
思うが如何か。

→あくまでも今回の想定が、県外として考えられる九州を前提として、そこに避難するためには航空会社も含め、機材が確保できるのか、船舶はどうするのか等を検討しているだけ。もちろん絶対武力攻撃予測事態等が起こらないことが一番望ましいことだが、行政としては備えとして考えないといけない。あくまでも想定が九州であり、それが別の場所になることも十分にあり得る。その想定の中で初めて取り組む県外避難について、どのような形で安全にできるかに取り組んでいる。(防災危機管理課長)

### 【意見8】

・真栄里地区に住んでいるが、真栄里地区は毎月のようにアパートが増えて  
いる。先程、公民館の話が出たが、公民館の人も障がい者を把握しきれて  
いないと思う。私は目が見えないが、公民館がそのような障がいのある人  
の調査をしているのかわからない。真栄里地区以外からの住民が増え、公  
民館としても把握が困難な地域として真栄里地区がある。私のような目が見  
えない人をだれが助けてくれるのか心配である。是非とも地域で障がい  
者の調査をしてほしい。

→福祉総務課の方でこれから、どの地域にどのような人がいるのかという避  
難行動要支援者の調査に取り組む。その調査も踏まえ地域の公民館と話を  
しながら把握に努めたい。意見のあった点は一番頭が痛いところである。  
5万人というのは住民票の数であり、島内の住民の中には、住民票を移さ  
ずに住んでいる方もいる。観光客を含め島内にいる人の実数をどうやって  
把握していくかも大きな課題である。今回意見交換会を行ったが、避難実

施要領の作成については、まだまだ多くの課題がある。令和8年度をゴールとしているが、課題が非常に大きい事を実感しているが、その課題に取り組んで行きたい。(防災危機管理課長)

#### 【意見9】

- ・引越しをした時に、役所に届け出なくても、マイナンバーカードで住民の把握はできないのか。
- マイナンバー登録者数彼がすべてこの島にいるとも限らない。実際にこの島にどれくらいの人がいるのかをどのように把握すればよいのかという点は非常に大きな課題と考える。(防災危機管理課長)

#### 【意見10】

- ・住民避難登録は当日行うのか。
- 当日行うことになる。(防災危機管理課長)
  
- ・私は大浜に住んでいるが、大浜からだ直接飛行場に向かった方が早い。それなのにわざわざ住民避難登録センターに行きそこで避難登録をして、バスに乗ってから空港に向かわないといけないのか。直接空港に行っても避難者登録していなかったら飛行機は乗れないのか。
- 基本的に現在、検討してるのはそのような形で、自分の車で直接空港に向かわれると空港が混雑してしまう。そこは警察署の方の力を借りて交通規制をさせていただきたい。例えばボーイング738の場合は、バス4台で空港に向かう。その10分後にまた4台で向かう。それに戻ってくるバスもある。なのでこのルートは交通規制をさせていただきたい。(防災危機管理課長)
  
- ・精神障がいとかそういった人はパニックになってしまうので、事前の登録が必要かと思う。
- 事前の登録も検討しているところ。住んでいる地域によって集合する場所、時間も変わって来る。そのことをどうやって周知するか、また、如何に早く伝えるかなど課題があるので、武力攻撃予測事態が国から認定される前の段階で、ある程度全市民にはその周知や事前の登録の呼び掛けを行いたい。(防災危機管理課長)
  
- ・津波避難の時も基本は徒歩だったが、皆が車で避難して渋滞になった。そこを危惧している。

→津波と似てはいるが、各地域に一時集合場所を設ける。そこには原則徒歩で向かってもらう。島外に避難するので車を戻す人がいない。ただし、もちろん障がい者の方、高齢者の方、一時集合場所から遠い方には車で移動していただいて構わない。全員が車で移動となると困ることになるので、原則徒歩としている。(防災危機管理課長)

#### 【意見 11】

・私は視覚障がい者。避難をした際、避難先で私たちを誘導してくれる人がいるのか心配。避難してもそこでどのように生活していくのか不安である。トイレにも一人では行けない。

→避難受入先については、これから具体的な検討に入っていき事になる。その状態に応じて要配慮者の方は福岡空港に着いてから、その先の福祉施設あるいは医療施設の方に移っていくという形を検討しているところ。(防災危機管理課長)

・以前の戦争では台湾に疎開をしていた。そこから無事に帰ってきたが、またこのような事があって今後どうなるのか心配している。

→市としてもそのような事になってはならないと考えている。だが、行政として万が一の事態となった場合には、その土台を考えておかないと、全ての住民の方を安全に避難させることができるのか不安。その土台、たたき台を各関係機関と話をしながら、このような意見交換会を持ちながら、全住民を如何に安全に避難させるのかということを検討している。(防災危機管理課長)

#### 【意見 12】

・説明された事態になった場合、避難しないという人もいると思う。

例えば、現在島内には5万人が生活している。その5万人が食糧や医療等を提供して生活が成り立っているが、多くの人々が避難した場合、残った方が食糧や医療についてはどうなるのか。中には事情があって残らないといけない人もいると思う。残った人に対しどのような機関が設置されるのか、そこでどのような相談ができるのかわかれば安心する。

→現実的に考えた場合、そのようなことが発生し得ると考えている。ただ、今検討しているのは、あくまでも、いかにして全住民を安全に避難させることができるのかという部分。まずは全住民の避難を考えている。全住民の避難でさえ、まだまだ課題が多くあるという現状。

個人的には、全住民の避難要領が出来上がった後に、現実的に残った人を

どうするのかを考えていかなければならないと考えている。しかし、全住民の避難要領を考えるだけでも多くの課題が山積している。まずはこの課題を一つ一つクリアしていきたい。現実的な部分については、後に考えていきたい。(防災危機管理課長)

#### 【意見 13】

・残りたいという話が今あったが、例えばミサイルが投下された場合、ウクライナ、ロシアなど戦争が起きている。その場合食料がないという問題が起きる。生活が苦しい状況が報道されている。実際戦争が始まった場合、食べ物が無くなったりする状況になる。今、私もそういう想像をして、実際に残るという選択をした場合、食料等色々な物流が無くなり、苦しい状況になると思った。

→だからこそ、そのような戦争という状態には決してなっってはいけない。そのような事態になり残るという選択をした人が出てきた場合に、たしかに物流も止まるだろうし、非常に厳しい状況になると思う。今想定しているのは全住民を避難させること。国から避難の指示が出るので、法的には残る選択は無く、全員避難しないといけない義務が生じる事になる。行政としては、全住民をいかに安全に避難させるかの避難要領の策定に注力していきたい。(防災危機管理課長)

#### 【意見 14】

・準備している乗り物はノンステップバスだが、一度にバスに車椅子を5台乗せてもらったことがある。運転手は大丈夫なのかとかなり心配していた。

→車椅子の方がスムーズにバスに乗れるのか、屋内練習場に設置する予定の住民避難登録センターでスムーズに手続きができるのか、言葉のしゃべれない方、目が見えない方が手続きできるのか等は心配しているところ。これについては、今度、実際にその形を確認する実地確認を予定している。(防災危機管理課長)

#### 【意見 15】

・最後に、またこのような集まりはありますか。

→課題が解決などしていった段階で、このような場を持ちながら、皆様に報告していきたい。(防災危機管理課長)

- ・是非、細かく集まりをしていただきたい。僕が心配しているのは、僕たちの意見が届かないまま色々と決められるんじゃないかという事。ろうあ者なので情報がなかなか取れないので、細かく集まってしっかりと情報を提供していただきたい。ろうあ者団体があるので、代表にでも伝えていただきたい。また、今日の意見があった内容もまとめていただき、しっかりと残して欲しい。ここにいない人にもこの情報を届けて欲しい。見えない方もいるので点字で分かるようにして欲しい。皆が同じ情報を持てるような方法を考えていただきたい。最後にありがとうございました。